



令和5年6月23日



名古屋港とロサンゼルス港との覚書を更新します

本組合は、令和2年にロサンゼルス市港湾局と締結した、環境面の持続可能性と業務効率分野における情報共有等を目的とした覚書(MOU)について、有効期限の3年を迎えることから、グリーン海運回廊^{※1} 開設等に向けた協力や、港湾コミュニティ・システム^{※2} の普及啓発についての内容を加え、別紙のとおり MOU の更新を行います。

なお MOU の更新は、毎年開催している「港湾における環境及び業務効率化会議」にて行います。会議の詳細は以下のとおりです。

※1 国際海運からの温室効果ガス排出削減のため、温室効果ガスを排出しないゼロエミッション船が運航される航路

※2 コンテナ貨物の位置情報等を可視化し利用者に情報提供するシステム

- 1 日 時: 令和5年6月29日(木) 9:00~10:15
- 2 主 催: 名古屋港管理組合、ロサンゼルス市港湾局
- 3 開催方式: WEB 会議
- 4 主な次第:
 - (1) 関係者挨拶(主催者、領事館、JETRO)
 - (2) MOU への署名(専任副管理者、ロサンゼルス市港湾局長)
 - (3) MOU 対象分野における取組紹介(港湾管理者、民間団体等)
- 5 参加団体 (順不同)
中部圏水素利用協議会、豊田通商株式会社、Toyota Motor North America Inc.、
豊田通商アメリカ、株式会社三井 E&S マシナリー、長州産業株式会社、
Panasonic、Wabtec Corporation
- 6 取材について
報道関係者に限り冒頭(関係者挨拶、MOU への署名)のみの傍聴及び撮影が本庁舎8階特別室にて可能です。ご希望の場合は、6月26日(月)16:00までに、以下のお問い合わせ先までご連絡下さい。

【お問合せ先】
港営部誘致推進課
担当 三津田、光地
TEL 052-654-7835



ロサンゼルス市港湾局と名古屋港管理組合の間の覚書

本覚書は、港湾委員会によって運営されているロサンゼルス市港湾局（「ロサンゼルス港」の呼称でも知られる）と名古屋港管理組合（名古屋港）の間で締結された。以下、ロサンゼルス市港湾局（ロサンゼルス港）と名古屋港管理組合（名古屋港）は、それぞれを「当事者」、両者を「両当事者」という。

ロサンゼルス港と名古屋港は、1959 年以來の 64 年の長きわたり協力を続けており、この姉妹港関係を保持し強化しつづけている。

両当事者は、これまで親密に協力し、非公式訪問やその他の活動を通じて、貿易の拡大やそれぞれの港湾運営に関する情報を共有してきた。

両当事者は、グローバルな市場競争力の向上、港湾のイノベーションと技術の進歩、港湾運営の効率化、大気汚染物質と温室効果ガスの低減に向けた持続可能な環境の取組と強化のため、最適事例（ベストプラクティス）の実現に努めている。

ロサンゼルス港は、ロサンゼルスを持続可能な都市計画（Los Angeles' Sustainable City Plan）及びサンペドロ湾の港湾大気浄化行動計画（San Pedro Bay Ports Clean Air Action Plan）のもと、大型水素燃料電池トラックとコンテナ荷役機械の実証実験において、トヨタ自動車北米部門（Toyota Motor North America）と協働している。同時に、ゼロエミッション荷役機械の開発、LNG 燃料船や LNG 燃料供給船に対する革新的なインセンティブ制度、ロサンゼルス港の YTI ターミナルにおいて豊田通商アメリカと共同で行っている水素バリューチェーン開発計画の実証事業、Paceco 社との RTG 実証事業、長州産業アメリカ・北米トヨタ自動車・ダイキン工業・鴻池パシフィックカリフォルニアとの冷蔵コンテナ用の燃料電池式発電機の開発計画、長州産業とのグリーンエネルギーマイクログリッド構築への開発計画といった港湾産業を支援する新たな技術開発を追求している。

伊勢湾に位置し、自動車産業をはじめとする地域のものづくり産業を支える名古屋港は、サプライチェーンの環境負荷を低減するため、2050 年カーボンニュートラルを目標とする名古屋港 CNP 形成計画を策定し、LNG バンカリング拠点の形成を進めるとともに、環境性能に優れた船舶へのインセンティブ制度の充実、港湾荷役機械等への水素利活用に向けた調査など、港湾の脱炭素化に向けた取組を進めている。

ロサンゼルス港は、米国で最もコンテナの取扱量が多い港であるが、ワブテック（Wabtec）のグループ会社である GE トランスポーターション（GE Transportation）と提携して、システム効率を高めるためにポート・オプティマイザー（Port Optimizer）として知られる港湾コミュニティ・システムを開発・配備している。

日本屈指のコンテナの取扱いを誇る名古屋港は、荷役作業の効率化や処理時間の短縮化を図るため、日本初となる自働化ターミナルや集中管理ゲート、名古屋港のすべてのコンテナターミナルで利用されている統一ターミナルシステム（名古屋ユナイテッドターミナルシステム「NUTS」）を導入し、更なる効率化に向けた取組を進めている。

両当事者は、持続可能な未来に貢献し、また創造することにおいて重要な役割を担っており、責任ある事業と持続可能な港湾管理とは、港湾事業が受託者責任を果たしつつ、周囲の地域社会や環境に与える影響を最小限に抑えることに重点を置いたものであることに同意している。

上記全ての理由により、両当事者は以下の通り合意する。

第1条 本覚書の目的

本覚書の目的は、両当事者間の議論・協議・知見及び意見の交換を通じ、国際港湾の持続可能な運営における協働、協力関係の促進及び最適事例（ベストプラクティス）の共有の精神に基づいて両当事者間の関係をさらに深めることである。これにより、ロサンゼルス港と名古屋港における環境面の持続可能性と業務効率という両当事者の共通の優先事項を改善・向上させるものである。

第2条 協力の対象事項

- A. 両当事者は、持続可能な港湾管理には、競争力のある港湾運営の促進が含まれ、同時に、環境の持続可能性と最適な効率性のためのサプライチェーンのデジタル化を優先させることに合意する。両当事者は、両港の間でグリーン海運回廊（GSC）パートナーシップを確立し、将来的に GSC 実施計画を策定することに合意する。

そのために、両当事者は、業務効率と環境面の持続可能性に的を絞ったテーマについて、各当事者がその裁量により適切と判断する範囲内で、適宜、協議、議論、協力及び情報交換を行うことができるものとする。そのテーマは、以下を含むがこれらに限定されるものではない。

1. 港湾コミュニティ・システムの開発及び配備、普及啓発とデジタルプラットフォームを通じたエンドツーエンドのサプライチェーンの効率化
2. ゼロエミッション車とゼロエミッション荷役機械の開発と配備
3. 港湾の脱炭素化に向けた計画を通じた、両港間における GSC の開設及び進展
4. ターミナル運営、港内に停泊中の船舶、ドレージトラックに重点を置いた環境面の取組み
5. エネルギー利用及び代替エネルギー源の開発
6. 例えば科学・産業・スタートアップ企業をつなぐこと等、両当事者の共通の優先事項について改善・向上が図れる革新的な提携・新たな取組及びその他の活動

- B. 本覚書は、将来、両当事者が相互の書面による同意にもとづいて本覚書を改正することにより、その適用範囲を拡大または縮小することができる。両当事者が、財政的または人的負担を伴う特定のプロジェクトやプログラムを実施する際には、一方の当事者または両当事者の関連機関（理事会、議会または他の機関）の承認を必要とする場合がある。本覚書のもとで共有される情報は公共情報とみなされ、要求があれば一般に公開される。

第3条 本覚書の有効期間と終了

本覚書は、両当事者により書面により延長・更新されたとき、またはいずれかの当事者が本覚書の終了を希望する旨を終了希望日の30日前までに書面で通知することにより有効期間の満了前に終了したときを除き、3年間効力を有するものとする。いずれかの当事者が本覚書の終了を希望した場合には、両当事者は本覚書に関連して進行中の活動を停止し、要求があれば、共有情報が記載された全ての文書記録をその提供元となった当事者に返却する。

本覚書は誠意を持って取り交わされるが、それぞれの機関に対するいかなる法的拘束力も持たないものとする。

これを証するため、ロサンゼルス港及び名古屋港の両当事者の代表者は、2023年6月28日に米国カリフォルニア州ロサンゼルスで、2023年6月29日に日本国名古屋で署名した覚書を締結し、両当事者の提携関係を宣言するとともに、将来にわたって享受すべき緊密な関係を象徴するものとする。

ロサンゼルス港
ロサンゼルス市港湾局長
ジーン・セロカ

名古屋港
名古屋港管理組合専任副管理者
鎌田 裕司